＜日本の原子力開発・事故年表＞

　１９５４年　太平洋ビキニ環礁であった米国の水爆実験で、第五福竜丸の乗

　　　　　組員が被ばく。半年後にその１人、久保山愛吉さんが死亡した

　５６年　原子力委員会、科学技術庁、日本原子力研究所（原研）が相次

　　　　　いで発足。原子力推進体制が固まる

　５７年　原研の研究用原子炉「ＪＲＲ－１」（茨城県東海村）が臨界達

　　　　　成。日本初の原子の火がともる

　６６年　日本初の商業用原子炉、東海原発（茨城県東海村、出力１６万

　　　　　６０００キロワット）が営業運転を開始

　６７年　原子力委員会の長期計画が、使用済みの核燃料からプルトニウ

　　　　　ムを取り出し、高速増殖炉で燃やす「核燃料サイクル」の推進

　　　　　を明確にした

　７４年　原子力船「むつ」で放射線漏れ。設計ミスによる中性子線漏れ

　　　　　だった。９５年に原子炉が撤去され、船体は通常動力の大型海

　　　　　洋観測船「みらい」になった

　７５年　原発が１０基を超える

　７８年　原子力安全委員会が、原子力委員会から独立

　７９年　米スリーマイル島原発で、炉心溶融事故

　８５年　原発が３０基を超える

　８６年　旧ソ連のチェルノブイリ原発で炉心爆発

　９１年　関西電力美浜２号機で、蒸気発生器細管がギロチン破断。一次

　　　　　冷却水が二次系に５５トン漏れ、緊急炉心冷却システム（ＥＣ

　　　　　ＣＳ）が作動

　９５年　原発が５０基を超える

　　同年　旧動力炉・核燃料開発事業団の高速増殖原型炉「もんじゅ」

　　　　　（福井県敦賀市）でナトリウム漏れ事故。前年に臨界を達成し

　　　　　たばかりだった

　９７年　旧動燃東海再処理工場（東海村）のアスファルト固化処理施設

　　　　　で火災・爆発事故

　９９年　ＪＣＯ東海事業所で臨界事故